

外来カメ類

①カミツキガメ

カミツキガメとは？

カミツキガメ (*Chelydra serpentina*)

【特定外来生物】

原産地：カナダ、アメリカ合衆国、中央アメリカ他

1960年代以降、アメリカ合衆国から日本に愛玩目的で輸入されたのが始まりです。大型になり飼いきれなくなった個体が遺棄され、天敵も少ないことから国内の一部で定着しています。

愛媛県では、2006年頃から遺棄個体が散発的に確認されていましたが、2018年に今治市において複数個体が捕獲され、一部は幼体であったことから繁殖の可能性が高まっています。

■産卵時期：5～6月

■産卵回数：1回/年 75～95日で孵化

■産卵数：背甲長20cm⇒20個程度
背甲長30cm⇒30個程度

■成熟サイズ：背甲長17cm(生後5～6年必要?)

■成長速度：3歳までに急激に成長

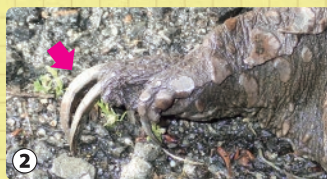
■繁殖の可能性が高い都府県

千葉県、東京都、静岡県、神奈川県、大阪府、愛媛県

カミツキガメの外観的特徴



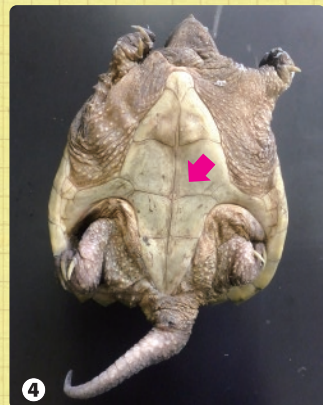
①背甲は緑色～オリーブ色で、在来の淡水カメ類と比較して大型になります。3本の隆起も発達しますが、目立たないこともあります。



②成熟個体は4肢共に爪が発達。



③背甲後縁はギザギザが目立ち、尾にも複数の突起が発達します。



④腹甲は小さく十文字状。



⑤幼体は背甲の隆起が目立ちます。

②ハナガメ

ハナガメとは？

ハナガメ (*Ocadia sinensis*)

【特定外来生物】

原産地：台湾、中国南部、ベトナム北部

愛媛県では2017年に松山市内の河川で確認されています。ニホンイシガメやクサガメと交雑することから、これらの交雑したカメも特定外来生物に指定されています。

ハナガメの外観的特徴



①黄色の直線状の縞模様が多くあり、前肢にも縞模様がある個体が多いです。

②背甲の線状の隆起はクサガメほど目立ちません。

③腹甲は白い縁どられた模様

③アカミミガメ

アカミミガメとは？

アカミミガメ (*Trachemys scripta*)

【緊急対策外来種】※

原産地：アメリカ合衆国、南アメリカ北西部

愛媛県で確認されるアカミミガメは、亜種であるミシシッピアカミミガメが殆どで、県内の河川、ため池を中心に広く定着しています。また野外で幼体も確認されていることから、遺棄個体だけではなく、野外で繁殖もしていると考えられます。

※緊急対策外来種：特定外来生物のような法的な規制はありませんが、対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種

アカミミガメの外観的特徴



①頭部両脇に赤い斑紋がありますが、雄個体では不明瞭になることがあります。

②雄個体は背甲の色が黒～黄色に変化することがあります。

③河川で確認された幼体

